

鉄骨工事 Q&A	デッキ・スタッド	焼抜き栓溶接	制定	2011年7月1日
			改訂	2016年7月1日

Q. 焼抜き栓溶接の溶接棒でE4316又はE4916を使い分ける判断基準はないか？

A.

E4316及びE4916の頭文字Eは被覆アーク溶接棒を示し、数字の前半2文字の「43」または「49」は溶着金属のJIS規格における引張強さ(N/mm²)の下限値を、後半2文字の「16」は被覆材が低水素系であることと全姿勢溶接が可能であることを表します。

従って、溶接する鉄骨梁の母材強度により、軟鋼(400 N/mm²級)の場合は「E4316」、高張力鋼(490 N/mm²級)の場合は「E4916」を使い分けることとなります。

各メーカー別に各種銘柄がありますが、使用前には溶接棒の容器に記載されている「JIS Z 3211 E4316」または「JIS Z 3211 E4916」を確認して下さい。

記号の意味

